

「学校評議員制度」について

◆学校評議員制度とは

学校法人五島育英会が、設置する初等中等教育学校（幼稚園、小学校、中学校、高等学校）において、校長が学校の外部の方々から多様な意見を幅広く伺って、円滑な学校運営に役立てるため、平成21年度からこの制度を設けました。本校においてもその趣旨にもとづき、「開かれた学校づくり」をめざして導入いたしました。

◆平成26年度の活動報告

○本校の学校評議員の皆様

- 羽田 宏 様（成城自治会会長）
- 熊谷 勝仁 様（公益財団法人海外子女教育財団 教育相談員）
- 大谷 眞一 様（東京都市大学教授）
- 寺村 尚彦 様（世田谷区立明正小学校長）
- 清井 礼司 様（弁護士）

○「学校評議員の会」開催日

第1回 平成26年5月19日（月） 第2回 平成26年8月27日（水）

○第2回の議事

本校の教育活動に関する報告（「平成26年度実施計画書」に基づく）と意見交換

○第2回における主なご意見（要旨）

- ・ 生徒会組織改編を生徒自ら発案、活動して成し遂げたことは素晴らしいと思う。
- ・ 海外から高2・高3になって帰国してくる生徒を受け入れる高校が少ない。この件も含めて、編入制度を早急に開始してほしい。また、大学には秋入学をぜひやっていただきたい。
- ・ 以前に比べて新たな行事（海外研修プログラムなど）の計画をされているが、教員の数が変わらないのであるならば、これまでの行事を減らしたり内容を変更したりして、教員の過重労働を防がなければいけないと思う。
- ・ 教員と同じように、行事が次から次へと行われると生徒が緊張の連続を強いられることになりかねない。「息抜き」のような時間も必要だと思う。また、生徒の身体や心のフォローなど養護教諭やカウンセラーとの連携も必要だ。
- ・ キャリアスタディは良い取り組みだと思うが、進学希望とマッチするよう多種多様の中から選択できるよう配慮する必要がある。
- ・ インターネットトラブルは多くの学校で抱えている案件である。事前指導の充実など他校の模範となる指導が実施されることを望む。
- ・ グローバル化は重要な取り組みであるが、宗教や生活習慣など難しい問題にも対応していかなければならない。外務省や企業とも連携し正しい情報を取り入れ、ミスを起こさないよう慎重に進めていってほしい。

（文責：学校記録担当）

※貴重なご意見を他にも多数いただきましたが、スペースの関係で一部しか掲載できませんでした。これらのご意見を受けとめ、さらに地域に開かれた特色ある学校づくりを推進してまいります。